

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社五竜					
代表者名	氏名	伊藤英喜	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県北安曇郡白馬村大字神城22184-10					
主たる事業の分類	大分類	R サービス業（他に分類されないもの）				
	中分類	95 その他のサービス業				
主たる事業の概要	スキー場の運営					
制度に該当する要件	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input checked="" type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	kl	844.93	836.00	915.41		
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	1,741.98	1,724.56	1,850.50		
その他ガス排出量合計	t-CO ₂					
自動車の台数	台	7		7		
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂					

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2021	年度	計画期間	2022	年度～	2022	年度
報告対象年度	2022	年度					

3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	閲覧場所 管理部 対応窓口 管理部総務 閲覧時間 8:00～17:00 連絡先0261-75-2101
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

2007年にISO14001を取得し、環境目標の一つに、エネルギーの効率的使用を掲げている。電気・燃料の使用量を集計し、増減の原因を確認し必要な対策を取る。

1. 実施方法

- ・無駄な燃料・電気・ガス等の使用は、削減する。
 - ・電気使用量・燃料使用量をCO2に換算して、集計確認する。
(金額を提示し、削減させる目的意識を持たせる。)
- 入込と共に、入込と関連性が認められる項目について比較する。

2. 監視・是正

毎月のISO推進プロジェクト会議で報告し、実施状況が悪い場合は、その原因を明確にし、改善する。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制

代表取締役社長			
温暖化対策責任者 (ISO推進プロジェクト 環境管理責任者)			
環境管理責任者補佐 (管理部 事務局)			
環境側面担当者 (索道営業部 部長) (資源エネルギーの消費活動)			
営業部		索道営業部	管理部
部長		次長	次長

5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

ISO推進プロジェクト会議 毎月開催

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	1,741.98	t-CO ₂	スキー場面積	33.00	単位	ha
2021年度	調整後排出量	1,650.13	t-CO ₂	基準原単位	52.79	t-CO ₂ /	ha
目標年度	目標排出量	1,724.56	t-CO ₂	目標原単位	52.26	t-CO ₂ /	ha
2022年度	目標削減率	1.00	%	目標削減率	1.00	%	
目標設定に関する説明	1.00%の削減を目指す。ISOプロジェクト委員会にて、毎月数値確認しながら節減に向けて工夫していく。						
第一年度	排出量	1,850.50	t-CO ₂	スキー場面積	33.00	単位	ha
	削減率	-6.23	%	原単位	56.08	t-CO ₂ /	ha
2022年度	調整後排出量	1,761.41	t-CO ₂	原単位削減率	-6.24	%	
	削減率	-1.12	%				
排出量等の増減理由	スキー場にインバウンドのお客様が新型コロナ時より増えた、そのため比例して営業施設の電気使用量が増え排出量が増加したと思われる。						
第二年度	排出量		t-CO ₂	スキー場面積		単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
—年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂	スキー場面積		単位	
	削減率		t-CO ₂	原単位		t-CO ₂ /	
—年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量		t-CO ₂			単位	
2021 年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
— 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
— 年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量		t-CO ₂			単位	
2021 年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022 年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
一 年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
一 年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	自動車		スキー場内作業車の作業内容見直し	2022			
2	エネ起	110302	省エネ進捗確認	2022			
3	エネ起	150201	高効率ランプへの更新	2022		2022	
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上								
1,500k1以上 3,000k1未満								
1,500k1未満	1	1,741.98	1	1,850.50				
合計	1	1,741.98	1	1,850.50				

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂				
CH ₄				
N ₂ O				
HFC				
PFC				
SF ₆				
NF ₃				
合計	0	0	0	0

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	0			
電気自動車	0			
燃料電池自動車	0			
クリーンディーゼル自動車	0			
その他 (ハイブリッド等)	0			
合計	0	0	0	0
自動車総数	7	7		
次世代車導入割合				

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	山間地の為、公共交通機関なし
自転車の利用促進	特になし
来客者の交通対策	特になし
物流の合理化	特になし

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		
	実施内容		実施年度
<input type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している 名称 IS014001		2008
<input type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 支持を表明している		
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input type="checkbox"/> SBT	SBT を策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Action へ参加している	
<input type="checkbox"/> その他			

1.5 自由記載欄

当社は、スキー場として初めてISO14001を、2008年に取得しております。導入の目標は「環境経営実績と継続的改善」であり、その中の一つに「汚染の予防」として有害な環境負荷の低減、省エネ燃料費の節減などに取り組んでいます。現在も環境マネジメントシステムを確立し、実施し、維持し、改善するために不可欠な資源を確実に利用できるように努力しております。

資源には、人的資源及び専門的な技能、組織のインフラストラクチャー、技術、資金を含むので、効果的に機能させるための教育訓練も行なっております。

白馬五竜スキー場は、1987年よりナイター営業を始めております。

当初、水銀灯197台とおみゲレンデ（全長1100m、面積95000㎡）を照らしていました。

2015年より省エネを目指し、LED灯に47台交換、2018年には44台の交換を行っております。

現在、LED灯91台、水銀灯97台を使用中。

2020年には電力会社の見直しを行い、ナイターに関わる電力を再生可能エネルギー100%の電力会社（みんな電力）に変更し、サステナビリティを意識した経営に取り組んでおります。